

■欧州：計画外潮流が電力市場統合遅延の原因

欧州エネルギー規制機関である ACER は 2012 年 11 月 29 日、ACER と欧州エネルギー規制者評議会（CEER）が初めて共同で行った欧州電力・ガス市場監視報告書の発表イベントにおいて、計画外連系線電力潮流（計画外潮流）により、中・東欧電力市場統合の進展が遅れていると述べた。欧州の電力業界と各国規制機関は、潮流ベース割当方式による市場統合が最も効率的に連系線容量を割り当てることができるとして基本的に合意しており、この方式による市場統合が欧州の目標モデルでもあるが、一部では公平性を欠くとの意見もある。ACER と CEER の報告書では、間欠性の再生可能エネルギーの大量導入と系統増強の遅れが計画外潮流の主な原因であるとしており、中でも中・東欧地域が計画外潮流によって大きな被害を受けているとしている。また、本報告書では、2010 年から 2011 年にかけて、西・中欧地域や中・南欧地域において計画外潮流は減少したが、中・東欧地域においては増加したと述べられており、ACER の計算によると、2011 年における計画外潮流の総量は約 850 億 kWh に上り、そのうち 400 億 kWh が中・東欧地域によるものだとされている。